

## インターバンクの声（2016年4月13日）

ここ最近も原油価格が反発する場面は何度かあった。ただこれまでは今ひとつドル買いに繋がらなかった気がするが、さすがに昨夜はドルが堅調となった。単なる価格調整の域を越え、原油生産の鍵を握るサウジアラビアとロシアが増産凍結で合意したとの報道があったためだ。北海ブレントは1バレル44ドル台、WTI原油先物も42ドル台まで上昇した。このまま45－50ドルの水準に達すれば、早くも市場が描いていた目標反発水準に届いてしまうことになる。こうした期待感も重なってか、ニューヨーク株式市場もエネルギー関連株を中心にほぼ全面高となった。久しぶりにリスク志向が強くなる相場が戻ってきたようにも感じられるが、ドル円は109円台回復を試すような水準に達することもなく一旦売られた。原油価格が上昇して株価も堅調になれば円買いの必要はないとの解説も目立つが、再び円売り地合いの相場に戻ったわけではない。つい数日前までは、ドルの反発局面は絶好の円買いのチャンスと思われていたが、一部にはドルの下落局面では円を売っても良いかも知れない程度への変化だろう。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。